

平成28年度 あきたスマートカレッジ (報告)

T特別講座

会場：秋田県生涯学習センター3階 講堂

【趣旨】年間のスケジュールには予定されていない特別なプログラムで、年度途中で特別に開講することになった講座です。

| 講座記号 | 期 日 | テーマ | 講 師 | 参加者数 |
|------|--------------|---|--------------------------|------|
| T 1 | 6月24日 (金) | 歴史が変わる！ 教科書が変わる！ 「奥州王 伊達政宗の陰謀」 ～独眼竜が放ったローマ教皇への密使～ | 青森中央学院大学・大学院 教授 大泉光一氏 | 130 |
| 合計 | | | | 130名 |

国際テロ対策がご専門で危機管理学及びセキュリティーマネジメント研究のパイオニアである大泉光一先生をお迎えしました。ライフワークとして半世紀以上にわたって支倉常長慶長遣欧使節の研究に携わっており、国内外において数十冊の関連書を上梓している伊達政宗についての新説を語っていただきました。



支倉常長・慶長遣欧使節の足跡を辿って

—海外資料を解読し、使節派遣の真相を追う—

「伊達政宗も徳川を倒し、天下人を目指そうとした一人だった。その奇策というべき手段こそが慶長遣欧使節なのだ。」という伊達政宗が企んだ倒幕のシナリオを半世紀にわたる一次資料の批判的考察をとおして解説していただきました。

1613年10月28日に支倉常長・慶長遣欧使節一行が宮城県牡鹿郡月ノ浦をフランシスコ修道会のフライ・ルイス・ソテロ神父並びに総勢150余名の日本人と共に「サン・ファン・パウティスタ号」でメキシコ及びヨーロッパへ向け出帆し、翌1614年1月29日アカプルコ港に到着した。

この慶長遣欧使節は、メキシコとの直接通商交易の開始を目的にした幕府と伊達藩合同の「訪墨使節団」とスペイン国王及びローマ教皇に対する伊達政宗の「キリシタン王」叙任の認証誓願や宣教師の派遣要請を主目的にした伊達藩単独の「訪欧使節団」の2つのグループによって構成されていた。

スペインセビリヤ市で大歓迎を受けた使節一行は、1615年1月30日、スペイン国王の謁見を受けたが、政宗の信書と「申合条々(和平協定)」への返答を得られなかった。一行は、ローマ教皇に政宗の「キリシタン王」叙任の認証を誓願したが、宣教師の派遣とソテロの司教任命以外はすべて拒否され、使節の目的を果たせなかった。一行は、1616年1月7日、ローマを出発し、同年4月、困窮状態でマドリード郊外に辿り着いた。支倉とソテロは何とか国王からの返書をもらおうと手段を講じたが、その甲斐もなく1617年6月13日、スペイン政府は支倉に強制的な国外退去を命じた。

政宗の密命を命じられ時代に翻弄された常長について、自説を熱く語っていただきました。

参考：大泉光一「政宗の陰謀～支倉常長使節、ヨーロッパ渡航の真相～」大空出帆2016.

スペイン情報誌「acueducto la revista española en Japón Especial」 2013.8.